



テープを張って避難スペースを確保



パーティションを次々と設置



受付場所の開設準備



非接触体温計での検温

コロナ禍でも万全な避難所に

向陽小など3会場で開設訓練



避難者をパーティションに誘導

新型コロナウイルス感染症の影響に配慮した避難所開設訓練が11月1日、向陽小学校体育館で開かれました。訓練には、地元の新栄自主防災会の役員と市職員ら約40人が参加。体育館の床にテープを張って避難スペースを確保し、パーティション(仕切り)を配置したり、受付場所を設置して市職員がふんした避難者を避難スペースに案内したり、38度以上の熱のある避難者は対策スペースに誘導したりする訓練を行いました。

新栄自主防災会の渡邊末男会長は「訓練は時間的にスムーズに進んだが、避難スペースづくりで戸惑う場面などもあった。今後、防災訓練を重ねながら、改善していきたい」と話していました。

避難所開設訓練は、市総合防災訓練として開催され、この日は青葉中学校と渡波中学校でも地元の自主防災会が主体となり訓練を実施しました。今年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を踏まえ、市内一斉の避難訓練は取り止めたが、防災無線や災害メールからの発信を合図に、自宅や職場で①姿勢を低くする②頭を守る③机の下で動かないの三つの行動で自分自身の安全を確保する「シェイクアウト訓練」も初めて行われました。

図 危機対策課(内線4156)

SDGsで未来を変えよう!

エスディージーズ



図 SDGs地域戦略推進室(内線4223)

今回は、未来をより良く変えるための17の目標「SDGs(持続可能な開発目標)」のうち、目標10と目標11についてご紹介します。

10 人や国の不平等をなくそう



目標10 人や国の不平等をなくそう

各国内および各国間の不平等を是正する

ターゲットの主な内容

- ・低所得者の所得成長率が、国内平均を上回るようにする。
- ・差別的な法律、政策、習慣をなくす。

市の取り組み例

●外国人相談窓口開設事業

3カ国に対応する外国人相談窓口を毎週定期的に開設し、市政情報の提供や専門相談機関の紹介など、窓口相談業務を行います。

ほかにも…
・日本語教室等開設事業、市民相談事業など

世界では、所得の不平等のほか、年齢、性別、障害、人種、民族、出自、宗教や国家間の格差など、さまざまな不平等が課題となっています。

このような不平等は、日本でも他人事ではありません。日本の所得格差のレベルは先進国の中でワースト8、男女格差は149カ国中110位という報告もあります。

不平等や差別をなくし、みんなの人権が尊重され、誰もが個性と能力を最大限に発揮し活躍できる社会を実現していくことが求められます。

わたしたちにできること

- 世界のいろいろな国の文化や肌・髪の毛の色の違いなどを学んでみましょう。
- 身の回りに不平等が生じていないか考えてみましょう。



不平等をなくすには、お互いの違いを認め合い、相手を大事にする気持ちを持つことが大切!

わたしたちにできること

- 自分が住んでいる身近な地域や市全体について見つめ直し、どんな魅力があるか、そしてどうしたらもっと住みやすくなるか、みんなで話し合ってみましょう。
- いつどこで発生するか分からない災害に備え、「公助」のほか、一人一人が「自助」、「共助」の意識を持ち、日頃から災害に備えましょう。



目標11 住み続けられるまちづくりを

包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市および人間居住を実現する

現在、世界人口の半分以上が都市部で暮らしています。その数は、今後ますます増えると考えられており、2050年には世界の3分の2の人が都市部に住むと予想されています。

便利で住みやすい都市が必要とされる一方で、交通渋滞やごみの大量発生、インフラの老朽化など、都市化に伴って生じる問題も多々あります。

今後も、人々が住み続けられる都市にするためには、これらの課題を解消し、安全な住宅や移動手段の確保、大気汚染などの環境悪化の軽減、自然災害による被害の抑制などを実現していく必要があります。

市の取り組み例

●自主防災組織機能強化事業

自主防災組織が必要な防災資機材などの購入を支援し、組織の防災力の向上と育成推進を図ります。

ほかにも…
・木造住宅耐震診断事業、地域公共交通運行維持対策事業、ごみ減量・資源化事業など

ターゲットの主な内容

- ・全ての人が安全で安価な住宅に住み、基本的なサービスを受けられるようにする。
- ・災害による被災者や経済損失を大幅に減らす。

